

養護教諭の教育実習における対象学生の意識の変容

仁王 紀夫

帝京短期大学 生活科学科

【抄録】

本研究は、将来、養護教諭を目指して学習している本学の学生が、教育実習に関連してどのような不安感をもっているかを明らかにし、養護教諭専攻コース学生への教育実習に関する指導の在り方を見直す一助とすることを目的とする。

本学養護コース専攻の第2学年学生を対象とし、教育実習前及び実習後のそれぞれの意識について質問紙調査を実施し、その傾向と変容を分析することとした。その結果、本学の学生を対象とした調査により、教育実習前に不安を感じていても、教育実習終了後に不安感が解消された内容と、教育実習後も不安感が解消しない内容があることが明らかになった。教育実習により、不安感が解消した内容として、「個別の子どもへの対応」「教職員との対応」が挙げられる。また、「養護教諭としての専門性」及び「学んだことのまとめ」に関しては、実習後も不安を感じている学生が多い。「学習指導・保健指導」に関しては、実習前は9割の学生が不安を感じており、実習後は不安を感じる学生が減少するものの、全体の5割以上の学生が引き続き不安を感じていることが分かった。全ての調査項目において、教育実習後に不安を感じる学生が減少しており、教育実習校の教職員の指導により、自信を深めることができていることが裏付けられた。

教育実習後も引き続き不安を感じる学生が多い調査項目<「養護教諭としての専門性」及び「学んだことのまとめ」>に対しては、教育実習の事前・事後指導の在り方を工夫・改善に取り組み、日常の学生指導において、ノート指導やレポート作成力の向上のためのきめ細かい指導に取り組むことが有効ではないかと推察する。「学習指導・保健指導」の資質向上に関しては、当該の内容を取り扱う講義において、指導内容の見直しや工夫改善を行うことで不安感の解消が図られるものとする。

【キーワード】 養護教諭, 教育実習に関連した不安感, 質問紙調査, 事前・事後指導のあり方

I. はじめに

今日、学校教育における児童生徒の心身の健康問題は複雑化・多様化しており、そうした状況を受けて中央教育審議会答申（平成20年）において、養護教諭の役割の明確化が図られた。平成20年6月には学校保健安全法が改正され、同第7条の保健室の設置目的に、「保健指導」が加えられている。養護教諭として、「いじめ」や「児童虐待」、「不登校」や「特別支援教育の推進」等で専門性を発揮していくことが今まで以上に期待されている。

教師を目指す学生に対しては、従前から行われている「教育実習」に加えて、2009（平成21）年から、『教職課程の他の科目の履修や教職指導

の成果が、学生の中で統合され、最終的に教員として必要な資質能力が形成されたことを確認する』ことを目的として「教職実践演習」が必修となり、指導されてきている。この教職実践演習は、大学での座学と学校現場での体験、実習等で身に付けた力を統合し、教員としての資質・能力の集大成を図るためでもある。

本学においては、「養護実習指導」を第1学年の後期の専門教育科目に位置づけ、第2学年で実施する教育実習に向けた様々な指導を行っている。第2学年の後期には、教育実習での学びを踏まえた集大成として「教職実践演習」を専門教育科目として位置づけた指導をしている。指導が開始されてから約10年が経過した現在、その内容や効果について再点検する時期にきて

いると考える。

養護教諭を目指して学習している本学の学生が、教育実習の事前及び終了後に、どのような不安感をもっているかを明らかにすることにより、養護教諭専攻コース学生への教育実習に関する今後の指導の在り方を見直す一助とすることを主たる目的とした。

II. 方法

本学養護教諭専攻コースの第2学年学生を対象とし、教育実習前及び実習後のそれぞれの意識について質問紙調査を実施し、その傾向と変容を分析することにより、教育実習に対する不安感の傾向、教育実習による不安感の変容を把握することとした。

1. 調査対象者

帝京短期大学 生活科学科 養護教諭コース (2019年度) 第2学年学生 30名

2. 調査時期

教育実習事前調査 2019年7月、教育実習事後調査 2019年12月にそれぞれ実施。

3. 調査内容

(1) 質問項目

大野木・宮川(1996)は、教職課程履修の大学生にごく一般的にみられる心配・不安(教育実習不安)が、少なくとも「授業実践力」「児童・生徒関係」「体調」「身だしなみ」の4つの次元から構成されるとしている。本調査では、それらの構成要素をふまえながら、以下の4つのカテゴリで10項目の調査を行うこととした。

「人とのかかわり」に関する項目として、個別の子どもへの対応、教職員との対応、養護教諭との関係、保護者・学校医等との関係の4項目とした。

「指導力・専門性」に関する項目として、養護教諭としての専門性と、学習指導、保健指導の2項目とした。

「実習に必要なスキル等」に関する項目として、学んだことのまとめ、一般常識・言葉使い・服装等、自分の健康面・体力面の3項目とした。

「本学での指導の有効性」について本学での実習に関する(事前・事後含む)指導の有効性の項目を設定した。

(2) 回答方法

前記の各項目について、それぞれ「大変不安」「やや不安」「概ね大丈夫」「自信がある」の4つの選択肢から一つ選び質問紙法により回答することとした。

「本学での指導の有効性」の質問項目の選択肢に関しては、「大変有効」「概ね有効」「あまり有効でない」「無効」の4つの選択肢とした。

また、対象学生が、各項目の回答を選択する際、その理由を述べられるよう、文章による自由記述欄を各質問項目別に用意した。

4. 倫理的配慮

調査対象の帝京短期大学 生活科学科 養護教諭コース(2019年度)第2学年学生30名に対して、本研究について趣旨説明を行い、同意を得ている。また、個別の回答内容を回答者氏名がわかる形での公開は行わないことも伝え、同意を得ている。

III. 結果

1. 「人とのかかわり」に関する意識調査

(1) 「個別の子どもとの対応」に関する自信や不安

表1の質問項目①「個別の子どもへの対応」の調査結果から、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が90%であり、ほとんどの学生が不安を感じていた。実習後は、大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が40%に減少し、反対に、実習後は「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合が60%に改善した。多くの学生が、教育実習を通じて、児童とのかかわりに自信を深めたことがわかった。

(2) 「教職員との対応」に関する自信や不安

表1の質問項目②「教職員との対応」の調査結果から、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が83.3%であり、「個別の子どもへの対応」と同様に、多くの学生が不安を感じていることがわかる。実習後は、「大変不安」を選択した学生の割合が0%であり、「やや不安」を選択した学生の割合が20.0%となった。実習後、「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合が80.0%となった。

多くの学生が、教育実習を通じて、教職員と

のかかわりに自信を深められたことが考えられる。

(3) 「養護教諭との関係」に関する自信や不安

表1の質問項目③「養護教諭との関係」の調査結果から、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が50.0%であり、「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合も50.0%と拮抗していた。教育実習後は、「やや不安」を選択した学生の割合が3.3%と大幅に減少した。

表1. 教育実習前と教育実習後の学生の意識①

人とのかかわり					
質問項目	選択肢	実習前		実習後	
		回答数	%	回答数	%
①個別の子どもへの対応	大変不安	13	43.3	5	16.7
	やや不安	14	46.7	7	23.3
	概ね大丈夫	1	3.3	12	40.0
	自信がある	2	6.7	6	20.0
	合計	30	100	30	100
②教職員との対応	大変不安	11	36.7	0	0
	やや不安	14	46.6	6	20.0
	概ね大丈夫	5	16.7	14	46.7
	自信がある	0	0	10	33.3
	合計	30	100	30	100
③養護教諭との関係	大変不安	4	13.3	0	0.0
	やや不安	11	36.7	1	3.3
	概ね大丈夫	13	43.3	13	43.3
	自信がある	2	6.7	16	53.4
	合計	30	100	30	100
④保護者・学校医等との関係	大変不安	6	20.0	2	6.7
	やや不安	17	56.7	5	16.7
	概ね大丈夫	7	23.3	13	43.2
	自信がある	0	0	8	26.7
	〔無回答〕	0	0.0	2	6.7
	合計	30	100	30	100
指導力・専門性					
⑤養護教諭としての専門性	大変不安	11	36.7	9	30.0
	やや不安	19	63.3	13	43.3
	概ね大丈夫	0	0.0	8	26.7
	自信がある	0	0.0	0	0.0
	合計	30	100	30	100

「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合が96.7%となり、ほとんどの学生が、教育実習を通じて、養護教諭との関係に自信を深めていることがわかった。

(4) 「保護者・学校医等との関係」に関する自信や不安

表1の質問項目④「保護者、学校医等との関係」の調査結果から、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が76.7%であり、「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合は23.3%であった。教育実習後は、「大変不安」「やや不安」を選択した学生の割合の合計が23.4%であり、「概ね大丈夫」と「自信がある」の合計割合が69.9%となった。多くの学生が、教育実習を通じて、保護者、学校医等との関係に不安感が減少していることがわかる。

以上、対人関係に関する質問項目の結果から、いずれの項目においても実習前に不安を感じる学生の割合が高かったが、教育実習を経て、不安感が解消し、自信を深めている学生の割合が高いことがわかった。

2. 「指導力・専門性」に関する意識調査

(1) 「養護教諭の専門性」に関する自信や不安

表1の質問項目⑤「養護教諭としての専門性」の調査結果では、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が100.0%であり、全員が不安を感じている。実習後は、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が73.3%に減少し、反対に、実習後は「概ね大丈夫」と回答した学生の割合が26.7%となり、「自信がある」と回答した割合は0%であった。養護教諭の専門性に関する不安は、実習の前後、何れも多くの学生が感じていることがわかる。

(2) 「学習指導・保健指導」に関する自信や不安

表2の質問項目⑥「学習指導・保健指導」の調査結果では、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が90.0%である。教育実習後も引き続き不安を感じている学生の割合は56.7%と減少してはいるものの半数以上の学生にとっては不安が解消していない。

以上、「指導力・専門性」に関する質問項目の結果から、いずれの項目においても実習前に不安を感じる学生の割合が極めて高いことに加え、

教育実習を経ても尚、不安感が解消していない学生の割合が半分以上と高い状況であることがわかった。

3. 「実習に必要なスキル等」に関する意識調査

(1) 「学んだことのまとめ」に関する自信や不安

表2の質問項目⑦「学んだことのまとめ」の調査結果では、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が56.7%であった。

表2. 教育実習前と教育実習後の学生の意識②

質問項目	選択肢	実習前		実習後	
		回答数	%	回答数	%
⑥学習指導・保健指導	大変不安	17	56.7	11	36.7
	やや不安	10	33.3	6	20.0
	概ね大丈夫	3	10.0	9	30.0
	自信がある	0	0.0	3	10.0
	【無回答】	0	0.0	1	3.3
	合計	30	100	30	100
実習に必要なスキル等					
⑦学んだことのまとめ	大変不安	5	16.7	3	10.0
	やや不安	12	40.0	13	43.3
	概ね大丈夫	8	26.7	11	36.7
	自信がある	1	3.3	2	6.7
	【無回答】	4	13.3	1	3.3
	合計	30	100	30	100
⑧一般常識・言葉使い・服装等	大変不安	2	6.7	1	3.3
	やや不安	12	40.0	4	13.3
	概ね大丈夫	9	30.0	15	50.0
	自信がある	7	23.3	10	33.4
	合計	30	100	30	100
⑨自分の健康面・体力面	大変不安	2	6.7	0	0.0
	やや不安	8	26.7	3	10.0
	概ね大丈夫	9	30.0	16	53.3
	自信がある	11	36.6	11	36.7
	合計	30	100	30	100
本学での指導の有効性					
⑩本学での実習に関する指導の有効性	大変有効	14	46.7	15	50.0
	概ね有効	13	43.3	13	43.3
	あまり有効ではない	3	10.0	2	6.7
	無効	0	0	0	0.0
	合計	30	100	30	100

「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は30.0%であった。無回答の13.3%は、実習前に具体的にどのような作業や処理が求められるかが明確に認識できていなかったことにより、回答できなかったと推察する。実習終了後、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が53.3%、「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は、43.4%となった。

実習後の不安感は、若干解消したものの半数以上の学生が、不安感を感じていることがわかった。

(2) 「一般常識等」に関する自信や不安

表2の質問項目⑧「一般常識・言葉使い・服装等」の調査結果では、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が46.7%であった。「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は、53.3%であった。実習終了後、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が16.6%、「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は83.3%となった。

かなりの学生が実習後に不安感は解消したことが伺える。

(3) 「自分の健康面・体力面」に関する自信や不安

表2の質問項目⑨「自分の健康面・体力面」の調査結果では、実習前に、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が33.4%であった。「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は66.7%であった。実習終了後、「大変不安」「やや不安」を選択した割合の合計が10.0%、「概ね大丈夫」と「自信がある」を選択した学生の合計割合は90.0%となった。

かなりの学生が実習後に不安感は、解消したことがわかった。

以上、「実習に関するスキル等」に関する質問項目の結果から、一般常識や自分の健康面、体力面に関しては不安感がかなり解消されたものの、「学んだことのまとめ」に関しては、約半数の学生の不安感が継続していることがわかった。

4. 「本学での指導の有効性」に関する意識調査

表2の質問項目⑩「本学での実習に関する指導の有効性」の調査結果から、実習前に、「大

変有効」「概ね有効」を選択した割合の合計が90.0%であり、ほとんどの学生は事前の教育や指導が適切になされていると感じて実習に臨んでいることが伺える。

実習後は、「大変有効」「概ね有効」を選択した割合の合計が93.3%にさらに割合が増加した。

しかしながら、「あまり有効でない」を選択した割合が6.7%であった。当該の選択肢を回答した学生がそう感じた原因を明らかにする必要を感じる。

IV. 考察

対人関係に関する不安は、教育実習を経て、不安感が解消し、自信を深めている学生の割合が高いことがわかった。その大きな要因は、各教育実習校の校長先生、養護教諭の先生を始めとする多くの教職員のきめ細やかな配慮と温かい対応があったことによるものと推察する。

貫井ほか(2002)は、数週間の教育実習では、授業観はさほど変化しないとしている。本研究においても「指導力・専門性」に関する質問項目の結果から、いずれの項目においても実習前に不安を感じる学生の割合が極めて高いことに加え、教育実習を経ても尚、不安感が解消していない学生の割合が半分以上と高い状況であることがわかった。教師の指導力の形成は、長年の経験が不可欠と考えられる。実習後、各学生の課題や問題意識に対応した事後指導らが有効であると考ええる。

一般常識や自分の健康面、体力面に関しては、教育実習後に不安感がかなり解消されたが、「学んだことのまとめ」に関しては、約半数の学生の不安感が継続していることがわかった。杉山(2002)は、毎日、実習記録簿をつけることについて不安が高いとしている研究と合致している。学んだことを的確に記録・整理し、記録する力の育成については、大学における授業でのレポート作成やノートの取り方等の積み重ねが大切であると考ええる。

本学における実習に関する指導の有効性については、実習前からその効果について自信をもっている学生の割合が(90.0%)高く、ほとんどの学生は事前の教育や指導が適切になされていると感じて実習に臨んでいることが伺えたが、実習後に、「あまり有効でない」を選択した割合が

6.7%であった。その理由として、「(事前指導は)イメージがわからなかった」「(事後指導は)1年次に先輩の実習報告を聞きたかった」と言った理由であった。

【謝辞】

本研究にご協力いただいた調査対象の学生に深く感謝申し上げます。

また、本研究の方向付けや進め方に関連し、適切なお助言をいただきました本学生活科学科長 宍戸洲美先生、研究のまとめに多大なご協力いただいた森田裕子先生並びに養護教諭コースの各先生方に深謝申し上げます。

【文献】

- 1) 文部科学省(2016)「教職実践演習(仮称)」について(イメージ)文部科学省 Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337163.htm (2020年10月22日)
- 2) 大野木裕明・宮川充司(1996) 教育実習不安の構造と変化 教育心理学研究 第44巻 第4号, 87-95
- 3) 貫井正納, 市川洋子, 庄司佳子, 吉田雅巳(2002) 教育実習生の授業観について(Ⅱ) —自由記述報告の結果から— 千葉大学教育学部研究紀要, 第50号, 45-57
- 4) 杉山喜美江(2002) 教育実習事前指導のあり方について —2. 教育実習に対する学生の不安要因— 東海女子短期大学紀要, 第28号, 167-176

On the Change of the Consciousness of the Target Student in the Teaching Practice of the Yogo Teacher

Norio NIO

Department of Living Science, Teikyo Junior College

【abstract】

【Purpose】 The purpose of this study is to clarify what kind of peace of rest our students who are studying with the aim of being to become a Yogo teacher in the future have a sense of security in connection with teaching practice, and to help to review the way of teaching practice for students in the course of Yogo teachers.

【Methods】 For second-year students majoring in the Department of Nursing Care at Teikyo Junior College, I conducted a question-and-answer survey on each consciousness before and after the training, and analyzed the trends and changes.

【Results】 As a result, a survey of the students of the University revealed that even if they felt anxiety before the teaching practice, the anxiety was eliminated after the completion of the teaching practice, and that the anxiety feelings were not resolved even after the teaching practice. The contents of the educational practice have eliminated anxiety, such as "response to individual children" and "correspondence with faculty and staff". In addition, many students feel uneasy about their expertise as a Yogo teacher and the summary of what they have learned. Regarding "learning guidance and health guidance", it was found that 90% of students felt anxiety before the practice, and more than 50% of the students continued to feel anxiety after the practice. In all survey items, the number of students who felt uneasy after teaching practice decreased, and it was confirmed that confidence was deepened by the guidance of the faculty and staff of the teaching practice school.

【Discussion/Conclusion】 For the survey items <"Specialization as a Yogo teacher" and "Summary of what I learned"> which many students continue to feel uneasy after teaching practice, I think that it is effective to devise and improve the way of pre- and post-instruction of teaching practice, and to work on detailed guidance to improve note instruction and reporting ability in daily student guidance. Regarding the improvement of the quality of "learning guidance and health guidance", it is considered that the anxiety can be solved by reviewing the contents of the guidance and improving the device in the lecture dealing with the contents.

【Key words】 Yogo teachers, anxiety related to teaching practice, survey of questions, pre- and post-instruction